

# 平成21年度財務計算書類概要

## 資金収支計算書

〔収入の部〕

(単位:千円)

科 目	平成21年度 予算額	平成21年度 決算額	増 減
1 学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	4,851,000	4,851,514	△ 514
2 手 数 料 収 入	187,000	159,187	27,813
3 寄 付 金 収 入	43,000	49,292	△ 6,292
4 補 助 金 収 入	866,000	845,826	20,174
5 資 産 運 用 収 入	149,000	120,866	28,134
6 資 産 売 却 収 入	109,000	209,000	△ 100,000
7 事 業 収 入	480,000	436,848	43,152
8 雑 収 入	98,000	89,591	8,409
9 前 受 金 収 入	824,000	872,052	△ 48,052
10 そ の 他 の 収 入	1,300,000	2,214,090	△ 914,090
11 資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 864,558	△ 935,065	70,507
12 当 年 度 収 入 合 計	8,042,442	8,913,201	△ 870,759
13 前 年 度 繰 越 支 払 資 金	2,014,226	2,014,227	△ 1
収 入 の 部 合 計	10,056,668	10,927,428	△ 870,760

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

### 【資金収支計算書について】

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容及び支払資金の収支でんまつを明らかにしたものである。

平成21年度資金収支計算書の総額は、109億27百万円となり、平成21年度予算額の100億56百万円と比較すると、8億70百万円の増となった。

### 【1. 学生生徒等納付金収入について】

予算どおりの収入となった。

### 【2. 手数料収入について】

予算対比 27百万円の減となった。

入学検定料:大学の志願者数が減少したことにより、23百万円の減となった。

### 【3. 寄付金収入について】

予算対比 6百万円の増となった。

特別寄付金:麻布大学父母会 10百万円, 同窓会 3百万円, 企業等 46件からの奨学寄附金 27百万円である。

### 【4. 補助金収入について】

予算対比 20百万の減となった。

国庫補助金:研究設備整備費を 19百万円を計上したが、申請しなかったためである。

経常費:3億46百万円, 特別補助:2億百万円, 利子助成:18百万円

地方公共団体補助金:経常費:2億50百万円, 学費補助金:25百万円等

### 【5. 資産運用収入について】

予算対比 28百万円の減となった。

受取利息・配当金:毎月分配型のダイワグローバル債券ファンドの分配金が平成21年度当初80円から50円に下がり、年間の分配金が 78百万円(H20:1億10百万円)になったことによる。

### 【6. 資産売却収入について】

予算対比 1億円の増となった。

平成16年購入の地方債 1件が満期になったことと、平成17年購入の外国債 1件が早期償還となったためである。

### 【7. 事業収入について】

予算対比 43百万の減となった。

附属事業収入:動物病院の診療収入は、予算対比 72百万円の減となった。検診センター収入として、特任教員4人に対応し、32百万円の収入があった。

受託事業収入:企業等 31件からの受託があった。

受講料収入:動物介在介入教育プログラム及び高校夏期講習等の受講料である。

### 【8. 雑収入について】

予算対比 8百万円の減となった。

退職者 7人に係る私立大学退職金財団及び神奈川県退職基金財団からの交付金などである。

平成21年度定年退職者 5人分を見込んでいたが、高校教員 1人が平成20年度に勇退退職したため、減となった。

### 【10. その他の収入について】

予算対比 9億14百万円の増となった。

減価償却引当特定預金からの繰入収入:予算計上していなかったが、満期に伴う書換の際、利回りの良い銀行で運用するため、資金を一旦繰入収入し、同額を繰入支出したためである。

### 【11. 資金収入調整勘定について】

本年度の期末未収入金と平成20年度の前受金収入である前期末前受金である。

### 【13. 前年度繰越支払資金について】

平成20年度決算における次年度繰越支払資金である。

## 〔支出の部〕

(単位:千円)

科目	平成21年度 予算額	平成21年度 決算額	増減
1 人件費支出	3,146,534	2,905,139	241,395
2 教育研究費支出	1,861,015	1,740,926	120,089
3 管理経費支出	589,800	536,703	53,097
4 借入金等 利息支出	36,666	36,570	96
5 借入金等 返済支出	111,110	111,110	0
6 施設関係支出	1,185,255	1,185,255	0
7 設備関係支出	227,860	207,579	20,281
8 資産運用支出	1,096,400	1,999,689	△ 903,289
9 その他の支出	165,000	209,033	△ 44,033
10 予備費	124,822	—	124,822
11 資金支 出調整 勘定	△ 211,000	△ 209,018	△ 1,982
12 当年度支出合計	8,333,462	8,722,986	△ 389,524
13 次年度 繰越支払 資金	1,723,206	2,204,442	△ 481,236
支出の部合計	10,056,668	10,927,428	△ 870,760

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

## 【1. 人件費支出について】

人件費は、当初予算内の決算となった。  
退職金支出: 定年退職者4人と自己都合による退職者3人の7人であった。予算では定年退職者5人を予算化していたが、うち1人が平成20年度に勇退退職したため、9百80万円の予算残となった。

## 【2. 教育研究経費支出について】

予算対比 1億20万円の予算残となった。  
消耗品費: 配分している予算の執行は、教員等に一任しているため、消耗品費、消耗備品費、機器備品費及び図書等に振り分けられ、消耗品費は28万円の予算残となった。  
光熱水費: 8・9号館及び獣医学部棟における省エネ対策の効果によるものであり、39万円の予算残となった。  
旅費交通費: 新型インフルエンザの影響により、国際交流を自粛したことにより、旅費が予算残となった。  
業務委託費: 建物等施設保守業務等を見直したことにより、30万円の予算残となった。  
消耗備品費: 消耗品費同様に振り分けられるため、消耗備品費は10万円の予算超過となった。

## 【3. 管理経費支出について】

予算対比 53万円の予算残となった。  
光熱水費: 事務改組に伴い、8号館1階部分を管理経費に移行したため、8万円の予算超過となった。  
業務委託費: 給与制度コンサルタント経費10万円のうち、50万円が未執行及び建物等施設保守業務等を見直したことにより、26万円の予算残となった。

## 【4. 借入金等利息支出について】

獣医学部棟建設資金の借入20億円に対する借入利息360万円である。なお、利子助成として、年1%の180万円を国庫補助金として受け取っている。

## 【5. 借入金等返済支出について】

獣医学部棟建設資金の借入20億円に対する平成21年度元金返済分(2回目)である。

## 【6. 施設関係支出について】

予算対比 250万円予算超過したので、予備費を使用した。  
建物: 事務改組に伴う改修工事 770万円(予算化せず、平成21年6月30日開催の理事会にて承認)、コンパニオンツグラボラトリ 480万円などである。  
構築物: テニスコート新設工事 300万円など、350万円の予算残となった。  
建設仮勘定: 新3号館建築工事(第1回目)などで当初予算どおりの執行となった。

## 【7. 設備関係支出について】

予算対比 20万円の予算残となった。  
教育機器備品: 予算対比 30万円の予算残となった。教育研究経費の消耗備品費の取得が多いことが要因である。

## 【8. 資産運用支出について】

予算対比 9億300万円の予算超過になった。  
減価償却引当特定預金からの繰入支出: 満期に伴う書換の際、利回りの良い銀行で運用するため、資金を繰入収入し、同額を繰入支出したためである。

## 【9. その他の支出について】

予算対比 44万円の予算超過になった。  
主な要因は、平成20年度の期末未払金である前期末未払金支払支出である。

## 【10. 予備費について】

次の勘定科目に予備費の使用を行った。  
施設関係支出 250万円である。

## 【11. 資金支出調整勘定について】

本年度末の期末未払金 2億300万円などである。

## 【13. 次年度繰越支払資金について】

平成22年度への繰越支払資金は、22億400万円となる。

## 消費収支計算書

〔消費収入の部〕

(単位:千円)

科 目	平成21年度 予 算 額	平成21年度 決 算 額	増 減
1 学生生徒等納付金	4,851,000	4,851,514	△ 514
2 手 数 料	187,000	159,187	27,813
3 寄 付 金	65,000	60,145	4,855
4 補 助 金	866,000	845,826	20,174
5 資産運用収入	149,000	120,866	28,134
6 資産売却差額	54	0	54
7 事業収入	480,000	436,848	43,152
8 雑 収 入	98,000	89,591	8,409
[A] 帰属収入合計	6,696,054	6,563,977	132,077
[B] 基本金組入額	△1,499,067	△1,366,298	△132,769
[C] 消費収入の部合計 ( [A] + [B] )	5,196,987	5,197,679	△ 692

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

### 【消費収支計算書について】

消費収支計算書は、学園の財政状況を表す計算書類であり、当該会計年度の帰属収入、基本金組入額、消費収入及び消費支出の内容並びに消費収支の均衡状態を示すものである。

消費収支計算書の平成21年度決算は、消費収入の部合計51億97百万円、消費支出の部合計60億27百万円で、8億29百万円の支出超過となった。

### 【消費収入の部について】

消費収入の部の帰属収入は、学校法人の負債とならない収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入が含まれる。

消費収入の部は、資金収支計算書とは違い、寄付金に現物寄付金及び基本金組入額が含まれている。

### 【3. 寄付金について】

現物寄付金：当該年度に現物寄付の物品を金額に換算し、計上した。

教員から科研費等で購入備品 5百46万円、高校の21年度卒業生から可動式東屋1百13万円、図書の寄贈 4百26万円である。

### 【[B]. 基本金組入額について】

学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして、帰属収入のうちから組入れた金額である。

帰属収入の合計額は65億63百万円[A]、基本金組入額は13億66百万円[B]となり、消費収入の合計額は51億97百万円[C]である。

基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで、4種類の基本金がある。

①第1号基本金：施設設備の整備拡充のために要した金額であり、平成21年度の組入額は、取得による組入額 13億81百万円、過年度の未組入高の組入 1億15百万円及び除却高 1億30百万円を相殺した 13億66百万円を組み入れた。

②第4号基本金：恒常的な資金の維持のための基本金であり、平成20年度における消費支出の部の合計金額から退職給与引当金繰入額及び減価償却額を除く金額を12で割った1月分の相当額を設定することとなっているが、本年度は組入を行わない。

〔消費支出の部〕

(単位:千円)

科 目	平成21年度 予算額	平成21年度 決算額	増 減
1 人 件 費	3,110,624	2,914,328	196,296
2 教 育 研 究 経 費	2,549,085	2,455,589	93,496
3 管 理 経 費	647,760	594,919	52,841
4 借 入 金 等 利 息	36,666	36,570	96
5 資 産 処 分 差 額	0	25,384	△ 25,384
6 徴 収 不 能 引 当 金 繰 入 額	0	398	△ 398
7 予 備 費	100,000	—	100,000
[D] 消費支出の部合計	6,444,135	6,027,188	416,947
当 年 度 消費支出超過額	1,247,148	829,509	—
前 年 度 繰 越 消費支出超過額	2,477,001	2,477,001	—
翌 年 度 繰 越 消費支出超過額	3,724,149	3,306,510	—

〔収支差額〕

(単位:千円)

[E] 帰属収支差額 ([A] - [D])	251,919	536,789	△ 284,870
[F] 帰属収支差額比率 ([E] / [A])	3.8%	8.2%	△ 4.4%
[G] 消費収支差額 ([C] - [D])	△1,247,148	△ 829,509	—

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

【消費支出の部について】

消費支出の部では、教育研究その他の諸活動に対応して消費した財貨と用役の額を示したもので、人件費、教育研究経費、管理経費等が含まれる。

消費支出の部は、資金収支計算書とは違い、人件費には、退職金に係る調整額として退職給与引当金繰入額及び退職金、教育研究経費及び管理経費には、減価償却額が含まれている。

【1. 人件費について】

退職給与引当金繰入額：教職員の退職金は、本学園の退職給与支給規程により支給されるが、その教職員の退職の際に支払われるであろう負担額を消費支出(退職給与引当金繰入額)として計上し、負債として認識することが、消費収支の持続的均衡を維持する上から必要とされる。退職給与引当金は、決算で貸借対照表の負債の部に含まれる。

退職金：退職者に支給される退職金(資金収支予算書退職金支出)から、退職者の退職給与引当金を差引いた額が含まれている。

【5. 資産処分差額について】

資産の除却による経費で建物、教育研究用機器備品、その他の機器備品、図書及び車輛などの除却である。

【6. 徴収不能引当金繰入額について】

動物病院の診療収入における過年度分の未収入金額のうち、徴収不能になりうる額である。

【収支差額について】

帰属収支差額[E]：帰属収入[A]から消費支出[D]を差し引いた額で、5億37百万円の収入超過となり、帰属収支差額比率([E]/[A])は、8.2%になる。

消費収支差額[G]：消費収支計算書における収支の均衡状態は、消費収入[C] 51億97百万円と、消費支出[D] 60億27百万円の差額で、8億30百万円の支出超過になる。

## 貸借対照表

〔資産の部〕

(単位:千円)

科 目		平成21年度 決算額	平成20年度 決算額	増 減
1	固 定 資 産	25,525,040	25,203,195	321,845
2	有形固定資産	16,910,444	16,308,203	602,241
3	そ の 他 の 固 定 資 産	8,614,596	8,894,992	△ 280,396
4	流 動 資 産	2,319,366	2,180,817	138,549
5	資産の部合計	27,844,406	27,384,012	460,394

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。

### 【貸借対照表について】

貸借対照表は、年度末(平成22年3月31日現在)における学校法人の財政状態を示す計算書類であり、資産、負債、基本金及び消費収支差額に属する項目を金額で表示している。

資産とは、教育研究活動に使用される学校法人の財産であり、負債とは、その財産の調達先のうち、将来返済しなければならない債務である。基本金と消費収支差額は、調達資金のうち法人外部へ返済の必要のない学校法人に完全に帰属する資金総額であり正味財産(自己資本)と呼ばれている。

資産の部＝負債の部＋基本金の部＋消費収支差額の部

### 【1. 固定資産について】

平成20年度決算と比較すると、資産の部の有形固定資産は、建物の減価償却による減及び教育研究用機器備品等の除却による減並びに建設仮勘定等の取得を相殺し全体では、6億2百万円の増加、一方、その他の固定資産では、退職給与、減価償却引当特定預金及び資産などへの繰入並びに施設設備引当特定預金の取崩しを相殺し、全体では2億80百万円の減少となった。

### 【4. 流動資産について】

流動資産では、1億39百万円の増加となり、資産の部全体では、4億60百万円の増加となった。

〔負債の部〕

(単位:千円)

科 目		平成21年度 決算額	平成20年度 決算額	増 減
6	固 定 負 債	3,281,448	3,373,115	△ 91,667
7	流 動 負 債	1,276,195	1,260,924	15,271
8	負債の部合計	4,557,643	4,634,039	△ 76,396

### 【6. 固定負債について】

負債の部の主な減少の要因は、固定負債の長期借入金1億11百万円の返済で全体では、76百万円の減少となった。

〔基本金の部〕

科 目		平成21年度 決算額	平成20年度 決算額	増 減
9	第 1 号 基 本 金	26,141,273	24,774,974	1,366,299
10	第 4 号 基 本 金	452,000	452,000	0
11	基本金の部合計	26,593,273	25,226,974	1,366,299

### 【9. 第1号基本金について】

基本金の部は、第1号基本金13億66百万円を組入れ、本年度の当期組入高の合計は13億66百万円となった。本年度末の基本金の部合計は、265億93百万円である。

〔消費収支差額の部〕

科 目		平成21年度 決算額	平成20年度 決算額	増 減
12	翌年度繰越 消費支出超過額	3,306,510	2,477,001	829,509
13	消費収支差額の部 合 計	△3,306,510	△2,477,001	△ 829,509

科 目		平成21年度 決算額	平成20年度 決算額	増 減
14	負債の部・基本 金の部及び消費 収支差額の部 合 計	27,844,406	27,384,012	460,394

(注) 決算額は、千円未満四捨五入したものである。